

謹賀新年

辛
丑

〈2021年〉

昨年は、中国武漢から発生した新型コロナウイルスの世界的感染拡大で日本も含めて世界中が大きな災害に見舞われた事で、多くの人々の生活や生命が奪われ、未だにその感染の拡大が終息してない、人類にとって未曾有の災難の年となってしまいました。加えてアメリカ大統領選挙で、民主党のバイデン氏が勝利し、かつて親中姿勢の傾向が強かった民主党政権下で果たしてどこまでこの身勝手に独裁的、覇権国家中国の暴走を抑え込めるか、世界の良識ある国々が協力して取り組まなければならないのが今年の一歩の課題である様に思います。

今年は辛丑「かのと・うし」の年で、「辛」は千支の8番目に位置し、季節でいえば秋の終わり頃で、植物なら枯れて実が腐って地面に落ち、次世代の種を大地に還す幕引きの時期となります。また「丑」は、発芽直前の曲がった芽が種子の強い殻を破ろうとしている状態で、命の息吹を表している状況になります。すなわち、「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」、「丑」は「種から芽が出ようとする状態」という事で、今年はいわゆる「転換期」となる年と思われます。

昨年、徳真会グループはコロナの感染拡大下で感染対策を徹底し、また、感染対策の仕組みやスタッフ教育を徹底する事で、組織としても有事の対応力をつけた年でもありました。そうした中で、通年ではほぼ前年と同様に患者様に御来院頂きました。ただ、一部の地区では受け入れ体制の拡充が遅れていることで、御来院頂いた患者様に御迷惑をお掛けすることがありました事に対して御詫び申し上げます。

今年、国内最大の歯科医療法人 徳真会グループでは次の課題に組織として取り組ませて頂きます。

①<診療部門>

- 1、在宅サービスの拡充
(新潟、東京、福岡地区に加え、大阪、仙台でスタート)
- 2、無料送迎サービスの拡充
(新潟地区に加え、仙台、大阪、福岡地区でスタート)
- 3、保育士による治療中の患者様の
子供さん無料預かりサービス拡充(全地区)
- 4、技工物のデジタル化推進により患者様の治療負担軽減と
技工物納期短縮及び品質向上
- 5、クリニックマネージャーの育成増強による現場対応力の強化

②<技工部門>

- 1、国内外でのM&Aと業務提携の拡大で、技工界の業態改革
による新たな産業の構築と、次世代技術者の育成
- 2、ミャンマーを始めとする途上国への技術支援

③<管理部門>

- 1、関連分野での企業内起業推進(website、システム、開発 etc.)
- 2、IT化、デジタル化の推進強化による運営精度の向上と
効率化
- 3、治療レベルのしっかりした全国規模での歯科医院の
紹介サイト Reliable Network の構築

以上を今年の主たる課題とし、より充実した診療現場を創ってゆきます。

お気づきの点や、御要望があれば何なりとご指摘いただければ幸いです。
(徳真会患者様窓口 TEL: 0120-24-7072)

今年も皆様にとって

より良い年となります様、祈念しております。

2021年 正月

徳真会グループ
代表 松村 博史



撮影場所：伊勢神宮（三重県伊勢市）